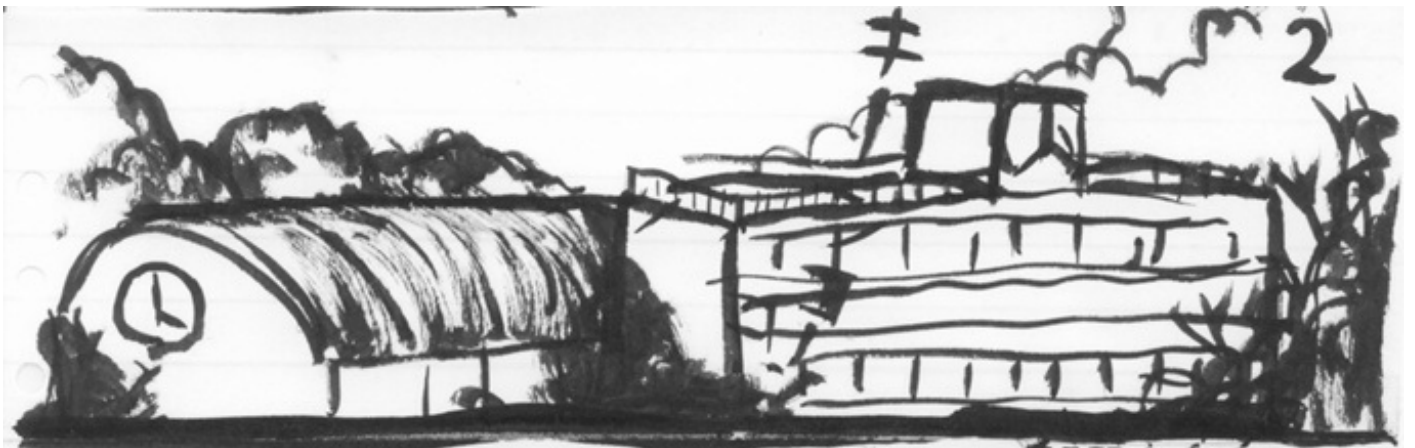


猫捨乙山



猫捨乙山

木山千恵







猫捨て山課

僕は町役場の  
猫捨て山課で働いていそ

町長の びびさんは  
粗大ゴミヤペットなどを  
こっそりあるこに捨てる



遠くから  
よがめこいそ



みんなの無責任が  
人知れず留って行くのも  
僕はどつするこも  
どつするこ



ふむ



お疲れ  
様でしたあ

お疲れ様  
あつかみ

あつかみ

お先にー

こそ



あ





僕は町子と  
アパートで暮らしている



町子

猫と一緒なんだよ

おこ



どうして...



まさか  
捨てたんじゃないか...

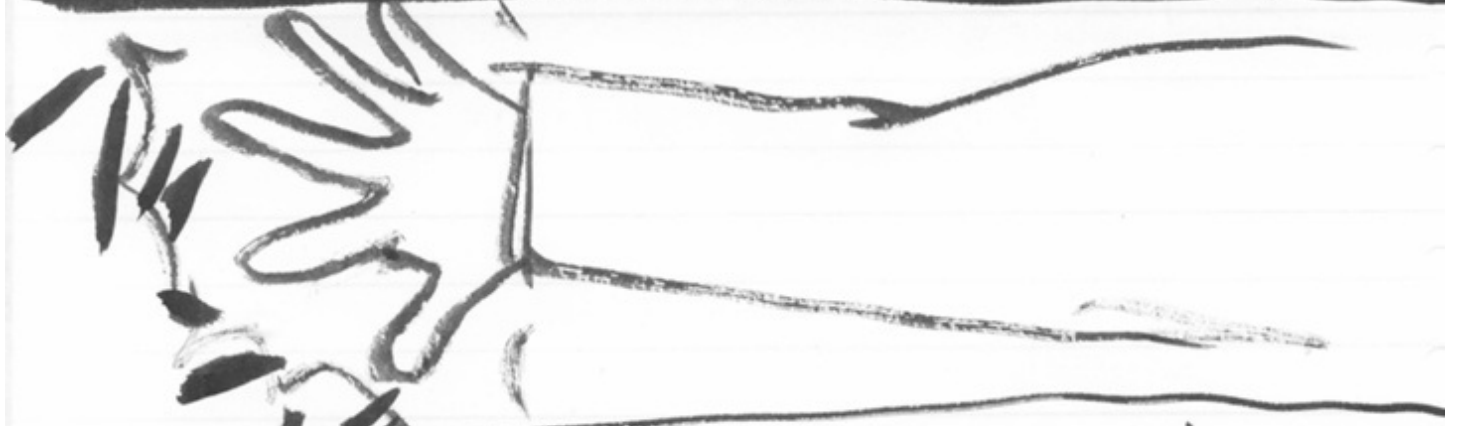


カー  
ザン



どに  
捨てたんだ?









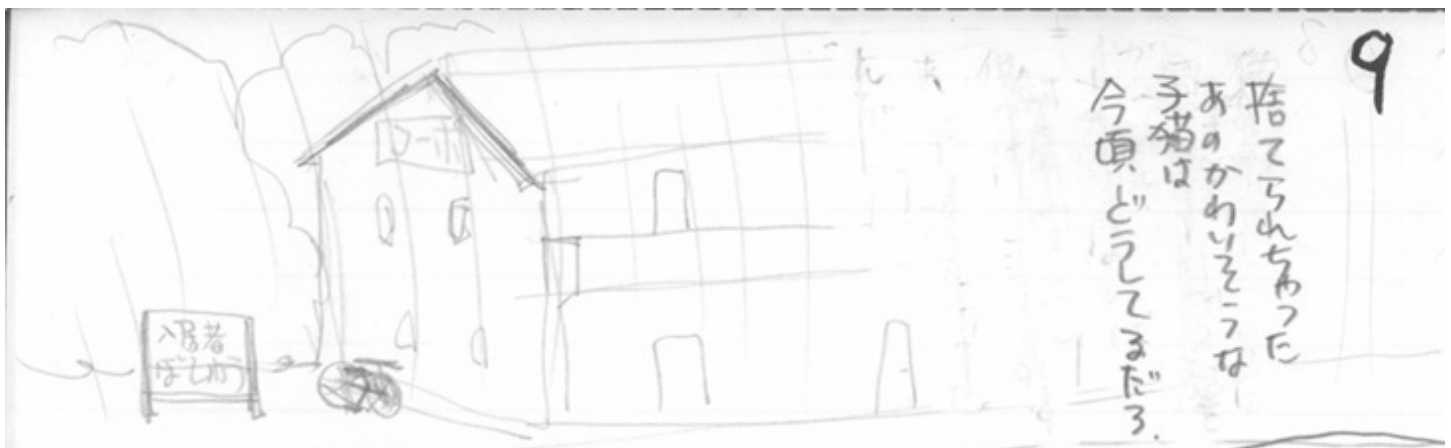
次の日彼女はア。パートを去る。しまった。  
ミニと出て行く  
タイミンクを見はからうとたみEいEいEい



あいつ  
僕がフレンチしたものは  
全部置いて行った、い

寝てらんちあつた  
あめかわいそつな  
子猫は  
今頃どうしてんだろ

入居者  
ほしめ



ゴング  
ゴング  
ガタガタゴ



ガ  
タ  
タ



あーれー？

ま...  
傘は返さな  
い...  
い...  
い...



ごも...  
...  
...  
...  
...



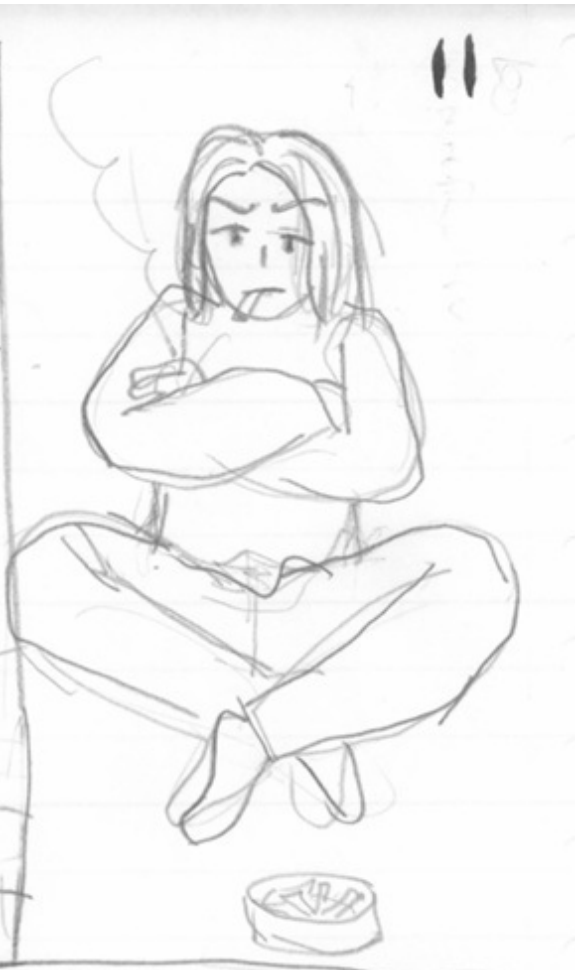
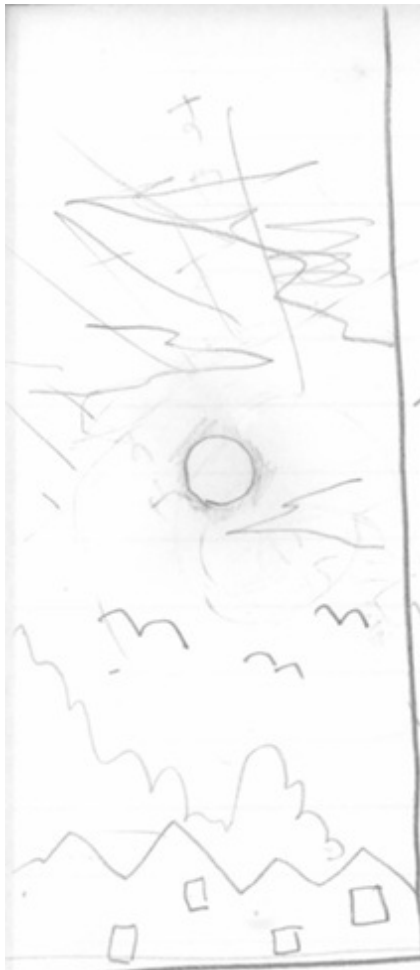


くしゅん

困ったなあ

傘返しに果ての？  
ちがうの？





アパートに帰って  
部屋には  
郵便がいくつかあった



大田さん  
さんぽんち  
次の日  
仕事を終えて



110  
ミ



ヤッホー  
行っちゃめンてな  
ろまっとかっか

メ  
メ



料理も  
洗濯も  
掃除も  
何も！

彼女は自分からは  
何もしよつと  
しなかつた。



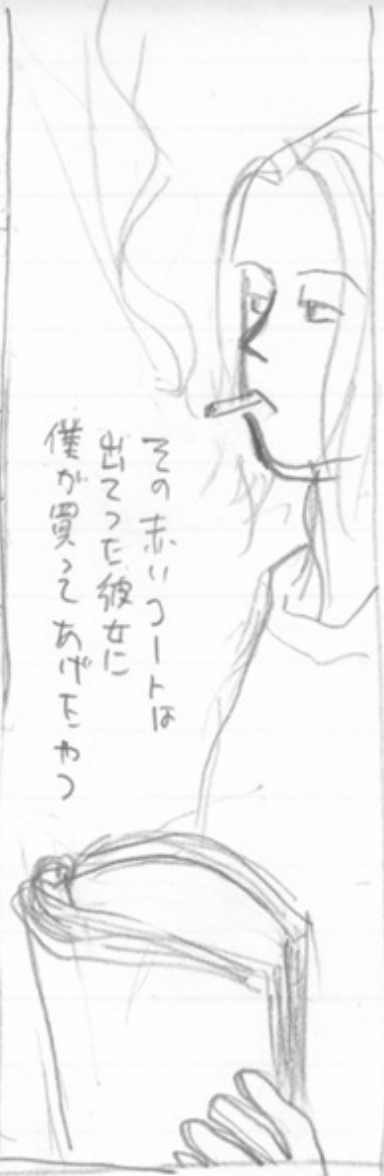
ごもーんごいろうそり  
よっすい。





その赤いコートは  
出たてを彼女に  
僕が買ったあげたから

君のニガが  
似合うよ



てなことは  
部屋を掃除しても  
したから、

もとも  
丁度でも  
動けないの、  
おぼろしい!!

いつも  
TV見て  
ゴロゴロ  
ぬーあ

君のニガが  
からしい



14

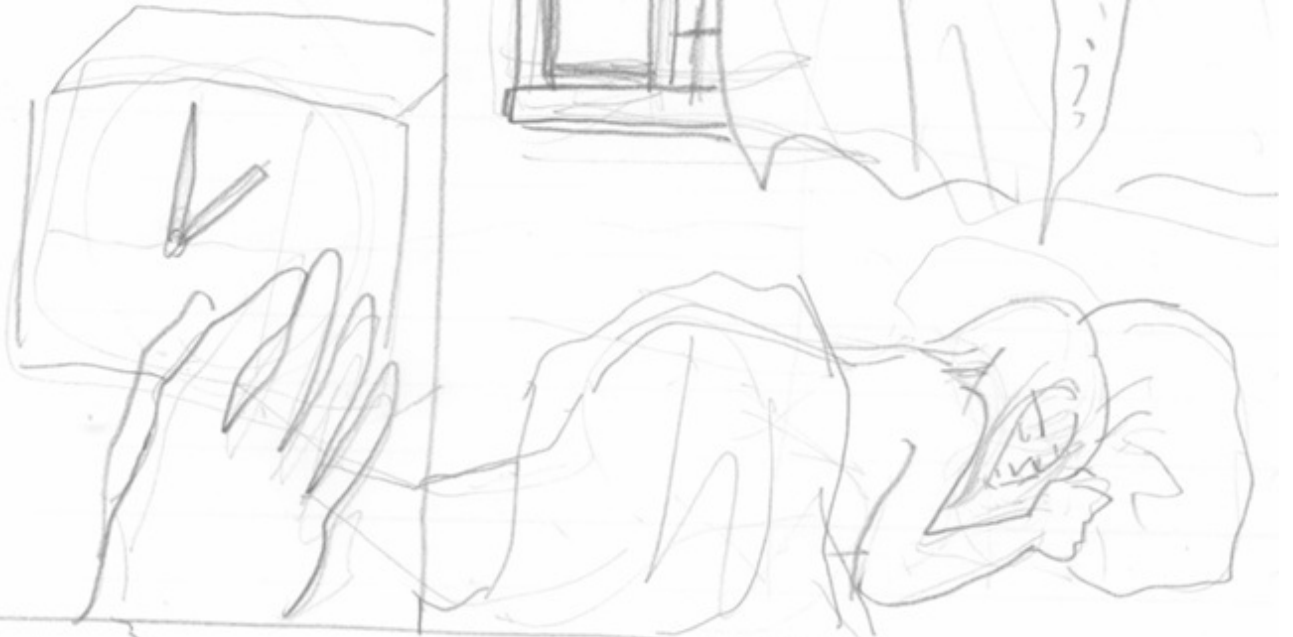
君の目にならな  
会いをかったんたい



僕は  
とりつかれたみたい  
何屋も  
彼女を抱きしめた



ハ？  
2時？  
カヘー！  
仕事



起キ、レハレ...

くく...

ち...  
カが出ない...



カヘー！  
カヘー！  
カヘー！

は

い...  
カヘー！  
カヘー！  
カヘー！



あつ子猫

大塚さんに  
かあいそつて  
しんがなかつた



猫捨て山



あつ子猫



死んだかな



猫捨山課

18



あ  
の  
...



猫捨山課

休んでるのかな...







20



もつと...  
船の...

僕...  
僕...  
僕...



ど...  
ど...  
どうしたの?!  
こんな  
に  
やせて!!

あの子は  
僕か助けて  
あげないと  
い...  
あのだ...



あの子に  
私見たわ  
私のコートキ

スニーカーの  
歩いてた

町子は強いか  
僕なんか必要ないんだよ



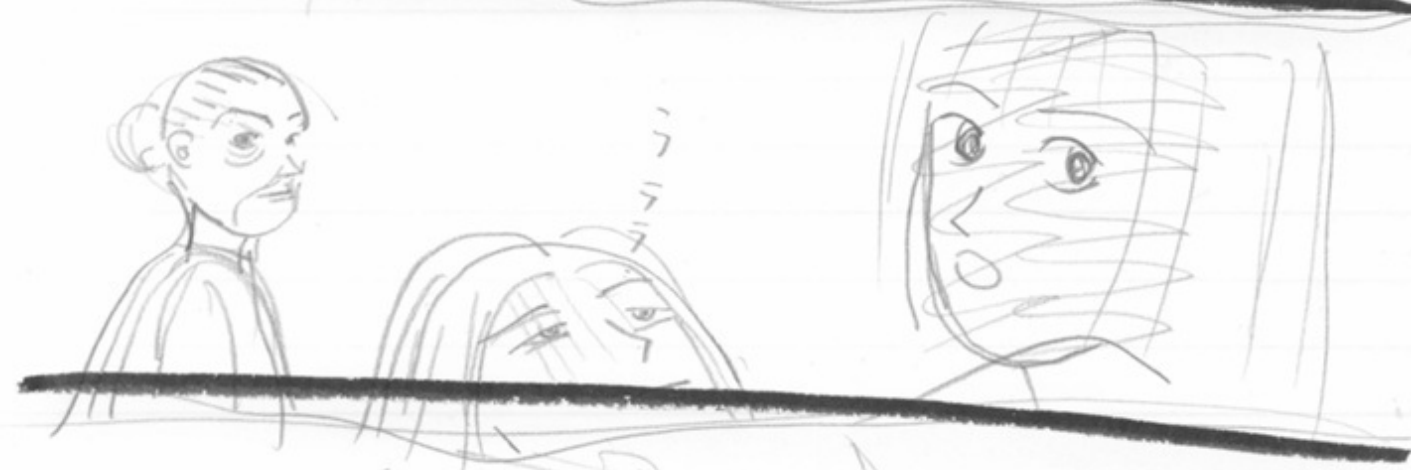
町子は僕のこと  
愛してたっ。



もももも  
なんで僕等  
一緒に暮らすことに  
なったのか毎  
日かろないな



私. あなたと  
仲良くないたかたの







あなたを私を捨てていしょう

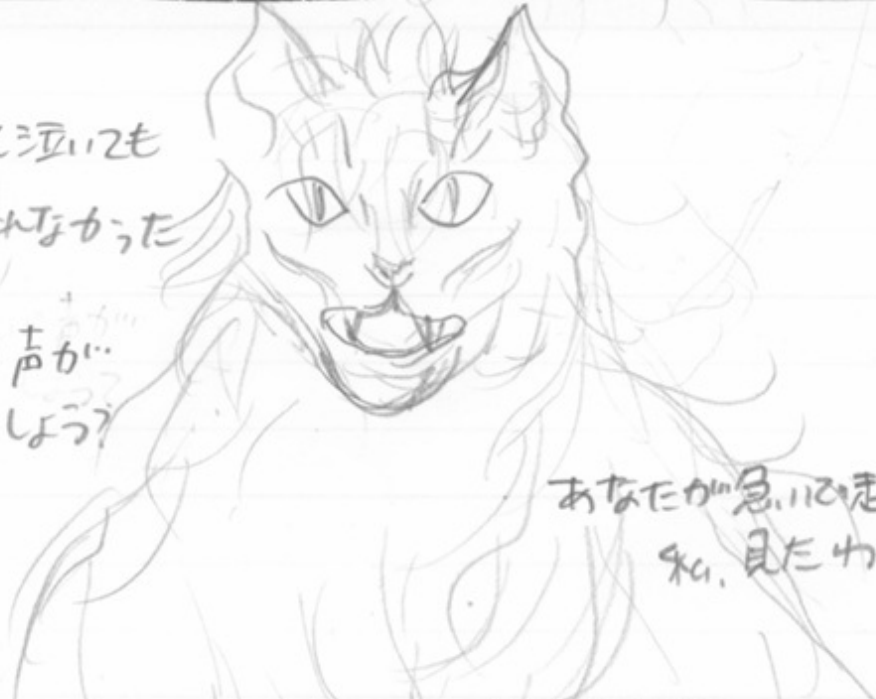
雨が降って寒かった  
おなかかあは  
苦しかった



ひとりでも寝てた  
ひとりでも寝てた

声をばらけて泣いても  
誰も来なかった

私の声が  
聞こえていしょう?



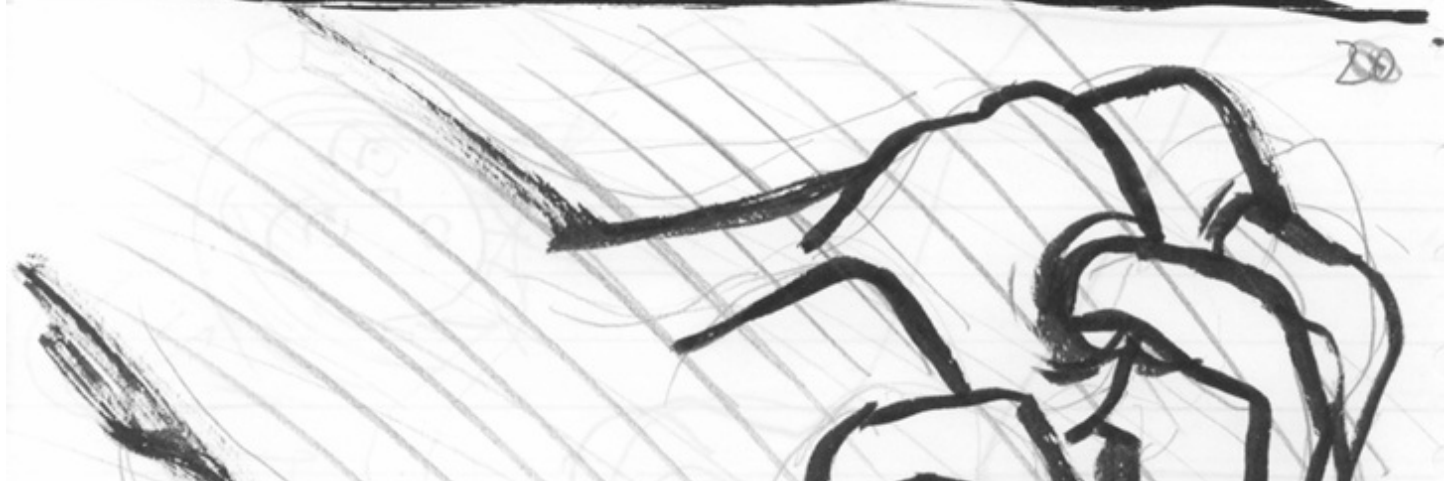
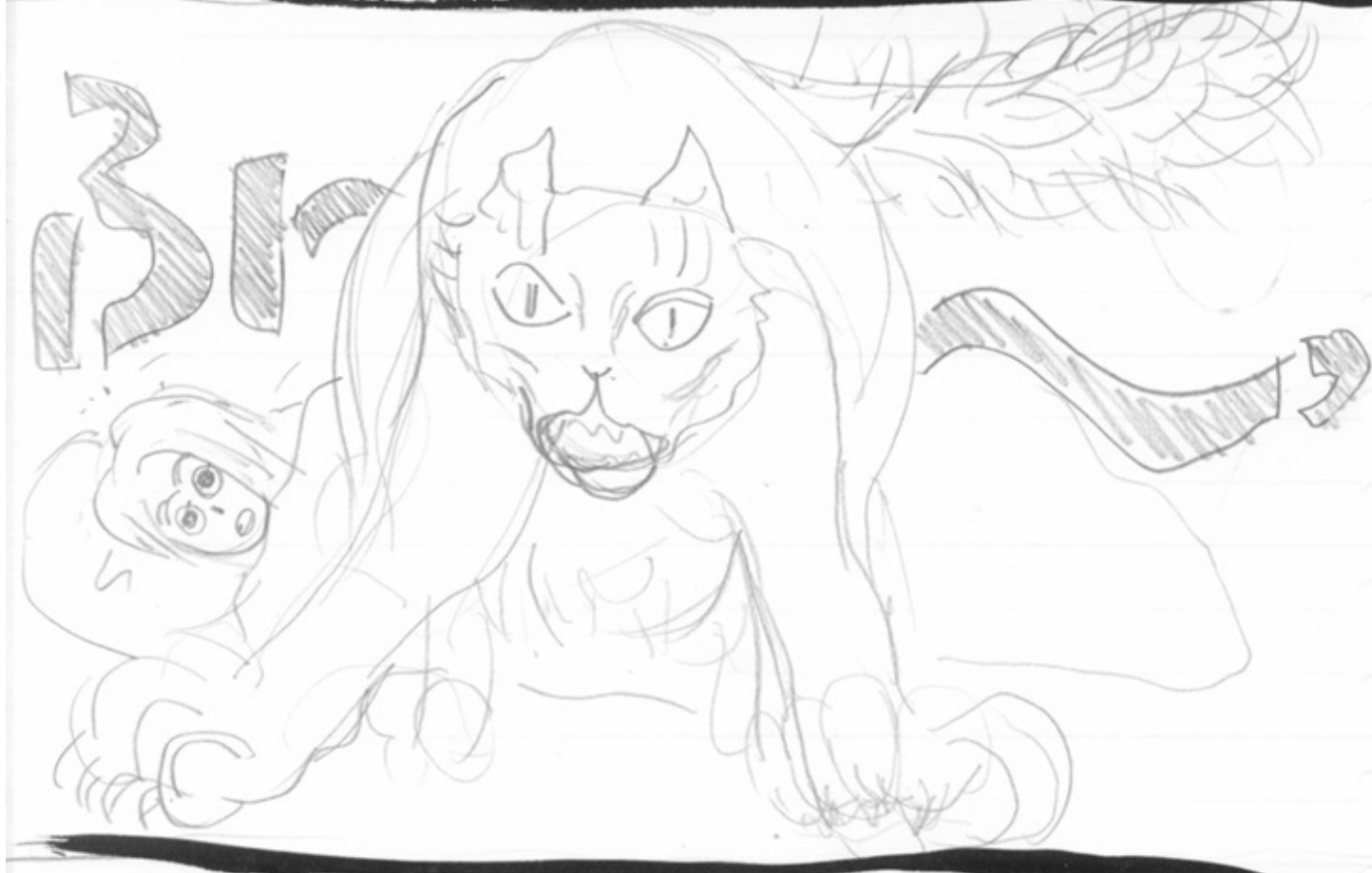
あなたが急いで走って行ったのを  
私、見たわ

あなたが嫌い。私、あなたを殺しに来たの

う

う







うめうめ

うめうめ













僕は化け猫に  
エネルギーを  
吸いとらぬこ  
いたのだから

大家さんてさー  
したてかっ  
やっつか



自分たっ  
自分たっ  
自分たっ

僕はなんとなくアパートを  
引越した  
僕達は  
再び同じアパートで  
生活するころはなかつたが  
時おり会うとき良事をし  
おしゃべりをするよ

猫捨山課

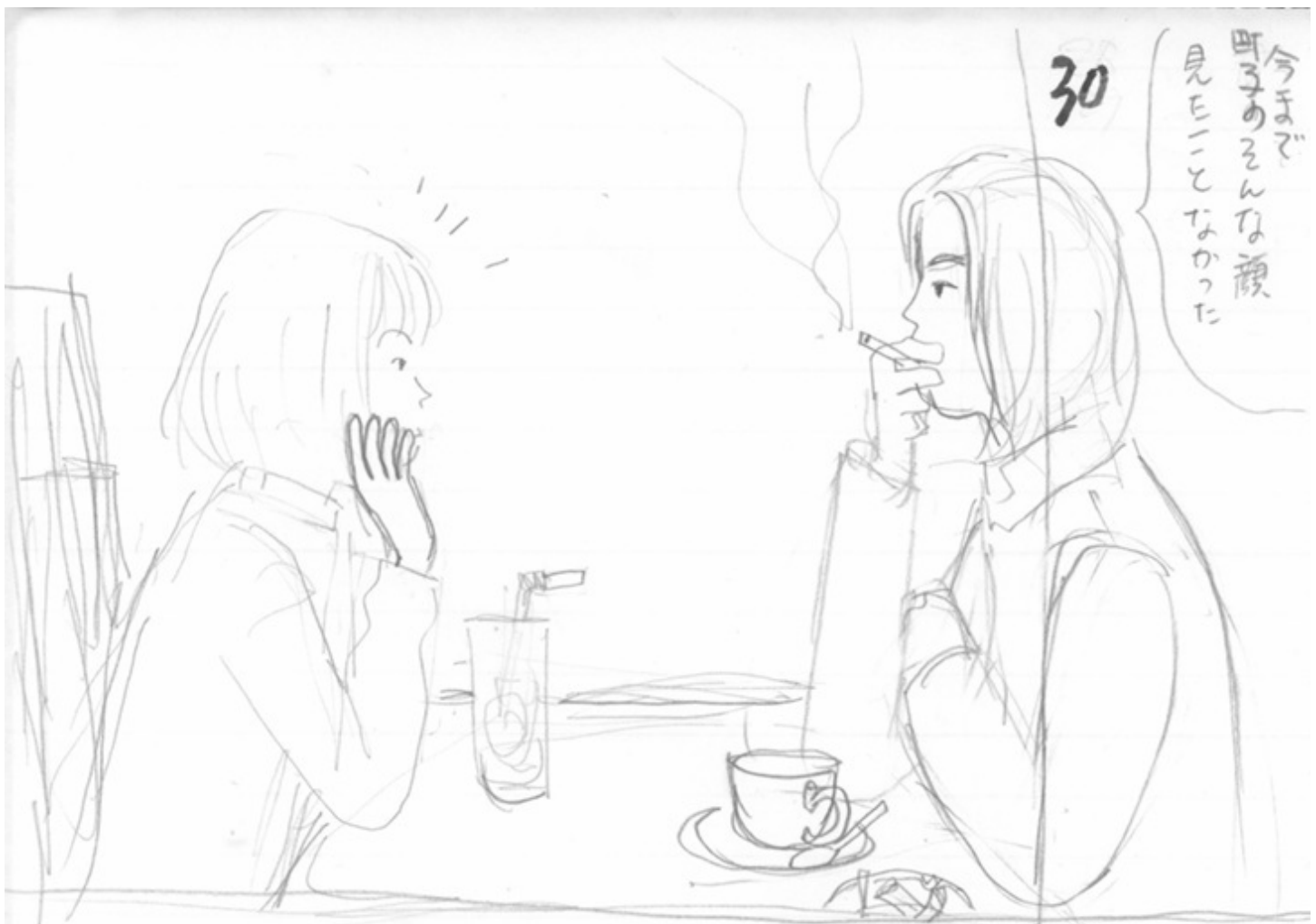
元気がなくなった  
仕事に復帰した

ハニョ  
とめた

一緒にいる時は  
こんなふう  
おしゃべりな  
しなかつたよ



今まで  
町子あんな顔  
見エーとよかった



店を出て

「またね」と

町子に手をふった

彼女も僕に

「っん、またね」と

手をふった



みん...



ここに来るともりほ  
なかつたんだけと...







猫捨山は学区外にあつたので  
仕事でこの管轄になるまでは  
この先は行ったことがなかつた



でもおつと前から知つておなじ味"おつと"  
ひんやりした空気  
山の香り  
枯れた竹やぶい  
風が"木の枝や葉は"を揺らす音  
妙になつかしい風景



今度町子に会つた時は  
この話をしようと思う。

## 猫捨て山

<http://p.booklog.jp/book/41563>

著者：森山千恵

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/nekos/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/41563>

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/41563>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのpapier（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社paperboy&co.